

国立大学法人 長岡技術科学大学

平成24年度第5回(第52回) 経営協議会議事要旨

日 時 平成25年1月15日(火) 13時30分～15時00分
場 所 ホテル東京ガーデンパレス「平安」
出席者 新原議長、東委員、池田委員、江口委員、岡田委員、木谷委員、神野委員、相岡委員、
宮下委員、山崎委員、武藤委員、高田委員、宮崎委員、三上委員、中出委員、斎藤委員
(議事の表決の委任による出席者：森委員)
陪席者 平山監事、滝上監事、小松附属図書館長 (高橋商工部長、原田客員教授)
事務局 総務部長、企画・広報室長、総務課長、人事・労務室長、総務課副課長、財務課長、財務課副課長、財務課予算係長、総務課専門職員、総務課総務係主任

以上 32名

議事に先立ち、第51回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. 職員退職手当規則等の一部を改正する規則の制定について

2. 役員退職手当規則の一部を改正する規則の制定について

宮崎委員より、資料1および2に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

3. 平成25年度学内予算編成基本方針(案)について

宮崎委員より、資料3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

4. 長岡技術科学大学学生基金について

宮崎委員より、資料4に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は、以下のとおり

- この基金でやりたいことを、もう少し具体的に示した方が寄附者に対してアピールになるのではないか。留学生への支援基金はないのか。
- 奨学金については、30周年記念事業を原資に、文部科学省等の従来の制度では支援できない部分をフォローし、日本人学生と留学生共に支援を行ってきたところで、これは継続する。また、本学では課外活動に参加している学生が増えており、活動資金が不足している活発なクラブにも支援していきたいと考えており、今までの活動状況を具体的に示し、学生の奨学金の支給、課外活動の支援、就職の支援等学生支援を図りたい。もっと、気軽に学生の支援ができる制度がほしいとの意見をいただいております、寄附者の利便性を考えて学生の基金に限定した。
- 財団にも携わり留学生の経済的支援を今までやってきたが、中には困窮しているにも関わらず、従来の支援基準では漏れる学生もいるので、この基金により勉学を継続できる状況をつくって頂きたい。
- 留学生の支援や実務訓練のフォローなど財団と連携し行いたい。

報告事項

1. その他

- ・国際大学との連携協定について

三上副学長より、本日経団連会館に於いて、国際大学との連携協力に関する協定の調印式を行った旨報告があった。最初の2年間、国際大学の修士課程でMBAを取得後、本学の博士後期課程でドクターを取得する5年間のコースで、工学系プラス経営理念、国際感覚を身につけた人材を輩出する。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 地域への貢献として地元企業の技術革新に貢献し、ベンチャー企業の育成についてさらに進めてほしい。
- ベンチャーを作るうえでは、工学系だけでなく、経営感覚や国際感覚が加わって成功の可能性が高くなるため、大学院博士課程で実際に経験してほしい。本学はインキュベーションスペースの設置や起業支援のセミナーも開催しており、引き続き取り組んでいきたい。
- 新潟経済同友会の有志で長岡市とベンチャー育成のラボ等の企画の協議に入るので、協力と連携をお願いしたい。
- 本学を困んでいる市町村長と協定締結に向け、協議を行っており、今年度中に数か所と協定締結の予定。今まで大学がやっていた領域までやる必要に迫られていると考えて進めているのでご指導をお願いしたい。

意見交換

- 外部評価委員会が開催されたと思うが、重要な意見があればできるだけ早く経営協議会にもご報告願いたい。
- 現状では、我々の大学がどんなことをやっているか理解して頂いている段階にあり、それに基づいてこれから具体的な意見を頂けることとなっている。次回の経営協議会には主な意見についてご報告したい。
- 県内のある私立大学ではベトナムのハノイ大学等から日本語でMBAの取得を目指す留学生を大学院に受け入れており、地元企業との交流を深めようと就職を斡旋している。長岡技科大はベトナムにおいてツイニングプログラムを先駆者としてしており、また、ベトナムと関係する企業は、ものづくり等を必要とし、工学系の大学に対する需要が高い。新潟の経済界はベトナムとの連携を強めようとしており、経済交流・技術交流を通じて学生への支援も期待できるのではないかと。
- 是非、これからそういう越越基金のようなものを念頭に置いて、お願いに参りたい。なお留学生向けの就職説明会を新潟市だけでやっていた団体も、技術系がほしいということでとしは長岡でも開催することになりありがたい。就職する学生の姿が見えてくると、企業からの求人も増えると思うので、交流につなげたい。

以上